

●胃がん検診部会

開催日	令和元年11月28日(木)
委員構成	奈良県がん予防対策推進委員(◎山田委員、伊藤委員、赤羽委員)、一次検診実施機関(松村委員、菊川委員)、精密検査医療機関(山尾委員) 計6名
議題 議論内容	<p>(1) 平成29年度市町村胃がん検診受診率等(確定値)及び平成30年度市町村胃がん検診受診率等(速報値)について</p> <p>(2) がん検診精密医療機関現況調査について</p> <p>(3) 精度管理について</p> <p>①チェックリストについて</p> <p>②胃内視鏡検診について</p> <p>③胃X線検診について</p> <p>④胃がん検診従事者研修会について</p> <p>(4) 胃がん検診実施要領改定について</p> <p>(5) その他 高水準消毒液についての他府県の基準等、および県内医療機関の検診状況について確認が必要との意見があった →調査の上、後日部会委員に報告を行った。</p>
課題	<p>① 要精検率が高い市町村への対応。</p> <p>② 判定困難画像に対する医療機関への指導。</p> <p>③ 一次検診受診から精検受診まで1ヶ月以上要する割合が多い。</p>
今後の予定	<p>① 要精検率の高い市町村の背景として同時生検の実施が考えられ、今後実施率を確認していく。</p> <p>② 判定困難画像を二年連続複数件出している医療機関に対し、胃がん検診従事者研修会への参加呼びかけ、および画像評価委員会に出席を依頼する。</p> <p>③ 胃がん検診従事者研修会の市町村アンケートにて、一次検診結果通知の送付に要する期間を調査を行う。 →市町村のうち約6割が1ヶ月以内に結果を送付し、診断指示区分が高い人には 電話や訪問をしているところが約7割あった。</p>

令和元年度 奈良県胃がん検診従事者研修会 実績

日時: 令和2年2月15日(土) 13:30~18:30

場所: 奈良県立医科大学 臨床講義棟臨床第一講義室

第一部 胃X線検診従事者研修会

時間
13:30~15:00

内容
①胃X線検診の精度管理について
②平成30年度胃X線検診における
発見がんの状況

講師
奈良県立医科大学放射線医学教室
伊藤 高広先生

参加者数
医療機関 60名
市町村 24名
合計 84名

第二部 胃がん検診総論

時間
15:15~16:15

内容
胃がん検診総論

講師
国立がん研究センター
中山 富雄先生

参加者数
医療機関 87名
市町村 26名
その他 3名
合計 116名

第三部 胃内視鏡検診従事者研修会

時間
16:30~18:30

内容
①胃内視鏡検診の精度管理について
②内視鏡の構造と洗浄消毒について
③平成30年度胃内視鏡検診の画像
評価結果と発見がんの状況について

講師
奈良県立医科大学
消化器・内分泌代謝内科
赤羽 たけみ先生
コーディネーター
奈良県立医科大学附属病院
中央内視鏡部
山尾 純一先生

参加者数
医療機関 57名
市町村 23名
その他 3名
合計 83名



開催日	令和2年1月28日（火）
委員構成	奈良県がん予防対策推進委員会委員（◎室委員）、一次検診実施機関（森下委員）、精密検査医療機関（本津委員、杉村委員、田口委員） 計 5名
議題 議論内容	<p>（1）奈良県における肺がんの死亡・罹患状況について【報告】</p> <p>（2）平成29年度市町村肺がん検診受診率等（確定値）及び平成30年度（速報値）について【報告】</p> <p>（3）精度管理について【報告】 チェックリスト遵守率、肺がん検診精度管理調査結果、令和元年度肺がん検診実施状況について</p> <p>（4）がん検診精密医療機関現況調査結果と登録基準について →平成30年度のがん検診精密医療機関現況調査結果及び他県における肺がん検診精密医療機関の登録基準を参考に、奈良県の登録基準の改訂について検討した。</p> <p>（5）その他</p>
課題	<p>①今年度、集団検診機関の精度管理調査結果について、施設名を伏せ、自施設のみ分かる形で調査結果を還元しているが、市町村への還元はしていない。</p> <p>②精密医療機関の登録基準について、CT撮影が自施設で可能であっても読影医師のスキルが担保されていることが重要である（放射線科医師であることが望ましい）ため、読影医師の状況を把握する必要がある。</p>
今後の予定	<p>①集団検診機関の精度管理調査結果について、施設への還元だけでなく、市町村にも結果を還元する。</p> <p>②令和2年度の精密医療機関現況調査にて読影医師の状況を把握し、登録基準の改定を再度検討する。当面は現行の基準とする。調査に使用する調査票については、調査案を作成し、部会で承認を得ることとする。</p>

<p>開催日</p>	<p>令和2年2月5日（水）</p>
<p>委員構成</p>	<p>奈良県がん予防対策推進委員会委員（◎小山委員）、一次検診医療機関（榎本委員・錦織委員）精密検査医療機関（石川委員・中山委員） 計 5名</p>
<p>議 題 議論内容</p>	<p>（1）奈良県における大腸がんの死亡・罹患状況について【報告】 →大腸がんの罹患率が男女共に増加していること、拠点病院以外で検査・治療が終了しているケースが多いこと等の意見交換を行った。</p> <p>（2）平成29年度市町村大腸がん検診受診率（確定値）及び平成30年度（速報値）について【報告】</p> <p>（3）がん検診精密医療機関現況調査について【報告】</p> <p>（4）精度管理について【報告】 チェックリスト遵守率、大腸がん検診精度管理調査結果、令和元年度大腸がん検診実施状況について →集団検診施設の精度管理調査結果について、要精検率のばらつきがみられることから、施設だけでなく、市町村への還元が必要との意見があった。</p> <p>（5）大腸がん検診の実施体制について →要精検者の未受診・未把握が多い現状と市町村の追跡方法について共有、取り組みの方向性について検討した。 また職域での検診状況や診療で検査を行う場合や市町村検診以外で受診した検診の実態把握ができないこと等について意見があった。</p> <p>（6）その他</p>
<p>課 題</p>	<p>①要精検者の未受診・未把握者の追跡方法は市町村によって異なるが、再度通知や電話追跡と比較すると、アンケート送付による結果の把握方法が未把握率が低く効果的であると考えられるため、市町村に周知する必要がある。</p> <p>②職域検診について実績を把握する方法がない</p>
<p>今後の予定</p>	<p>①要精検者の未受診・未把握者に対する追跡方法について、市町村へ周知する。</p> <p>②職域検診についての実績の把握は現段階では困難なため、地域の特徴（自市町村の罹患・死亡状況）を見ながら、がん検診の受診勧奨を実施できるよう引き続き市町村支援を行う必要がある。</p>

開催日	令和2年1月16日（木）
委員構成	奈良県がん予防対策推進委員会委員（◎池田委員）、一次検診医療機関・精密検査医療機関（小林委員・小山委員・山本委員）、集団検診機関（田畑委員） 計5名
議 題 議論内容	<p>（1）奈良県における乳がんの死亡・罹患状況について【報告】</p> <p>（2）平成29年度市町村乳がん検診受診率（確定値）及び平成30年度（速報値）について【報告】</p> <p>（3）がん検診精密医療機関現況調査について【報告】</p> <p>（4）精度管理について【報告】 チェックリスト遵守率、乳がん検診精度管理調査結果、令和元年度乳がん検診実施状況について →集団検診機関だけでなく、個別の検診医療機関においてもチェックリストを用いた評価が必要であることを共有した。</p> <p>（5）乳がん検診の実施体制について →豊胸術後（脂肪注入・ヒアルロン酸）、乳房疾患術後の受診希望者の取扱いについて、受診者への結果報告のあり方について（乳腺濃度、カテゴリー、読影医名等）を検討した。</p> <p>（6）乳がん検診従事者研修会について →研修会の内容、講師等を検討した。</p>
課 題	<p>①個別医療機関の精度管理評価ができていない。</p> <p>②術後（豊胸術後や、乳房疾患術後等）の受診者への対応について、市町村・医療機関で異なること。</p> <p>③結果報告について（乳腺濃度、カテゴリー、読影医等）市町村によって結果通知の内容が異なること。また高濃度乳房の場合は自費でエコー検査を受ける等、市町村として十分な説明ができる体制が必要となること。</p> <p>④検診従事者（読影医）が勉強する機会が少ない。</p>
今後の予定	<p>①個別医療機関の精度管理調査については、市町村を通じて実施してもらうよう調整する。</p> <p>②原則、県の実施要領に定めている通り、術後の受診者については、市町村検診の対象外とする。市町村が実施するこの乳がん検診は、2年に1回受診なのでリスクの高い片側の方を2年に1回で良いというエビデンスは今のところはない。術後は、原則は1年に1回の検査が必要。</p> <p>③結果報告について、乳腺濃度、カテゴリー、読影医を記載することは推奨しない。 →上記②、③については、事務連絡等で部会として市町村へ通知する。</p> <p>④従事者研修会は来年度1回開催。胃がん検診と同様に、検診で発見された症例等を集め、講師が画像を用いて説明等を行う形で検討する。</p>